

# 核兵器廃絶をめざす 富山医師・医学者の会 会報

2003.6.5  
核兵器廃絶をめざす  
富山医師・医学者の会  
富山市桜橋通り6-13  
電話 076-442-8000

## 有事法案の衆院通過に抗議声明

毎日新聞5/16

この日はまた、「核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会」（片山喬・世話人代表）が有事法案に抗議する声明文を発表、小泉純一郎首相に送った。声明は「日本は今、米国の政策に自国の運命をゆだねて自主外交を放棄するのか、それとも平和主義かが問われている」としている。

抗議声明文発表  
富山医師医学者の会

内閣総理大臣 小泉 純一郎 殿

### 先制攻撃に道を開く有事法案の衆院通過に抗議する

与党三党と民主党が修正協議で合意した、というニュースが流れたわずか2日後の5月15日、十分な審議がないまま有事法案が衆議院を通過しました。多くの国民が懸念している、あいまいな「有事」の定義、国民の基本的人権の保護を先送りしたままの採決に、私たちは抗議します。

法案の「武力攻撃事態」という定義では、武力攻撃の『おそれと予測』も対象となり、日本が実際に攻撃を受けていない場合であっても、政府の「判断」で先制攻撃を可能にするものです。また、自衛隊法では条文となっている「国連法規の遵守」の文言も外されました。

現在、日本を攻撃する意図や可能性のある国家はない、というのが世界の常識です。あるとすれば、アメリカの先制攻撃の出撃基地が日本に存在するが所以の反撃です。アメリカ議会は新型で使える小型核の開発にゴーサインを出し、1年半後には実戦配備を終え、再選をめざすブッシュ大統領はアジアでの核の先制使用を有力な選択肢と表明しています。

北朝鮮が、イラク戦争を誤った教訓として瀬戸際外交をさらに強めている現在、私たちはこの恐ろしいシナリオが現実味を帯びてきていることに戦慄を覚えます。

日本は今、アメリカの力の政策に自国の運命を委ねて自主外交を放棄するのか、それとも平和憲法を持つ国として国連中心の世界秩序の回復に積極的な役割を果たすのかが問われています。

私たちは、今回提出されている有事法案は専守防衛ではなく、逆に日本とアジア諸国を危険にさらすものであり、今国会での衆院通過に強く抗議し、参院での廃案を求めるものです。

2003年5月15日

核兵器廃絶をめざす富山医師医学者の会  
世話人代表 片山 喬

# なぜ私たちは有事法制に反対するのか

## 世論調査は賛成多数だが

共同通信社の世論調査によれば、昨年5月には有事法案への賛成が39%、反対が47%だったのが、今年5月の調査ではそれぞれ53.5%、反対は31.1%になりました。賛成の理由は「国として有事に備えるのは当然」が7割を占めています。

この結果の背景には、北朝鮮の核開発問題によって、国民の不安が高まっていることが影響していると言えそうです。

## 日本は攻められたことは一度もない

明治維新以後、日本の近代史は戦争に明け暮れてきました。しかし日本の国土が、ある日突然攻められたことは一度もありません。すべて日本が最初に手を出して、その反撃にあい、最後の最後に空襲を受け、原子爆弾が落とされたのです。

憲法第9条の戦争の放棄は、日本のためにではなく、侵略したアジア諸国に対し日本は安全な国になったことを宣言しているのです。

ありそうもない侵略が今にも起こるかのような浮ついた議論ではなく、実際に歩んできた歴史の事実と教訓から冷静に判断しなければなりません。

## アメリカの先制攻撃に巻き込まれる

自衛隊が、今日まで予算や装備を増やし続けてきたのは「有事に備える」という政府の主張からでした。もし自衛手段のための法整備が不十分であるならば、現行自衛隊法を改正すればよいはずです。

この有事法制の狙いは、攻められた時の「備え」ではなく、アメリカが起こす戦争に日本国民を強制的に協力させることにあることから、私たち核廃絶医師の会は反対しているのです。

## 北朝鮮にも抗議声明

5月7日当会は、米韓中の三国協議という重要な外交会議で核開発を事実上宣言し、核を外交交渉の道具に使う北朝鮮にたいし、下記の内容で抗議声明を発表しました。

### 北朝鮮は核開発をただちに中止し 平和と友好による国際社会への復帰めざせ

北朝鮮は4月末の米韓中三国協議において、実質的な核保有宣言を行ないました。これは、核拡散防止条約（NPT）や1992年の朝鮮半島非核化共同宣言に反し、また昨年9月の日朝平壤宣言でうたった「朝鮮半島の核問題の包括的な解決のため、関連するすべての国際的合意を遵守する」という精神を裏切る行為です。

核兵器の開発や実験、配備、使用などを許さない立場で活動してきた私たちは、核兵器による威嚇を国際外交の道具を使うやり方に対し、強く抗議するものです。そもそも北朝鮮にとっての安全保障上

の問題は、国際社会から孤立していることであり、その原因是国内における悲惨な人権状況と、国際的な無法行為を清算しないまま、瀬戸際外交を続けていることがあります。

国連人権委員会は北朝鮮の人権状況の改善を促す決議案を採択しました。また日本人拉致問題についても、その事実は認めめたものの国家的犯罪に対する反省はなく、真相究明を求める声にも誠意を見せていません。

イラク戦争で実証されたように、先制攻撃を辞さない米ブッシュ政権とのポーカーゲームは自殺行為であり、周辺国をも危険にさらす愚かな選択です。北朝鮮にとって最も効果のある安全保障は、ただちに核開発を中止し、周辺各国と平和友好の外交関係を築き、国際社会への復帰を本気でめざす道です。

私たちは北朝鮮に対し核開発の即時中止と平和的手段による問題解決をはかるよう強く求めます。

# ピースウォークin富山に参加



1列目左から太田真治世話人、矢野博明世話人、1人おいて小熊清史世話人、片山喬世話人代表

3月30日(日)、個人やNPO(非営利組織)など幅広い市民が結集した「ピース・トーク&ウォークin富山」が開催され、当会からは片山世話人代表を先頭に、矢野・小熊・太田各世話人と事務局が参加しました。

3月末、当会では、この戦争に反対する意思表示する方法として、診療室に掲示できるポスターを作成しました。そして保険医協会の協力で、より広範な医療人が参加できるよう県内の医師、歯科医師、医学者に送付しました。

作成したポスターはフォトジャーナリストの森住卓氏の写真を使用し、湾岸戦争で使われた劣化ウラン弾による放射線障害に苦しむ子どもたちが、切々と戦争の悲惨さを訴えています。

医科開業医、歯科開業医、医薬大教授、公的病院の勤務医・医局宛に、1500枚以上送付しました。

## 平和のために何か行動したいが…との声も

その際に同封したアンケート用紙では「ブッシュの個人的感情で世界を危険にさらされてはたまらない」「人を殺める事はいつ、いかなる時でも絶対悪です」「サダムは正しくないが、ブッシュの戦争も正しくない」などの声が寄せられています。また「平和のために何か行動したいが、診療が忙しくそうもいかない」

とのジレンマも聞かれました。

## 当会に26名からの募金と2名の医師が入会

また、ポスター作成や送付などのための「イラク戦争反対行動募金」を呼びかけたところ、26名の方々から計5万2千円寄せられました。なお、2名の先生に当会に入会いただきました。

### 募金に協力いただいた先生方 (敬称略)

石橋陽二、伊藤元弥、太田真治、大村栄、小熊清史、鏡森定信、片岡玲典、倉田幸夫、斎藤周子、澤田克巳、渋谷敏幸、島田憲一、高田良子、高野昇治、高野康雄、塚田邦夫、津田達雄、寺島祐輔、平野秀一、藤井俊彦、松井一成、松岡宗里、吉田耕司郎、吉田雅一、米田欽一、渡辺多恵

## 私たち医療人は イラク攻撃に反対します



セイザイ(セイちゃん)は、以前にひどい交通事故で頭を怪我してしまった。苦しそうな顔をしている。ハマー(英語)は「頭が痛い」と言っていた。手術もできない。あとが生きあれば…」と思って黙りこぼしていました。

写真  
森住卓  
子供が頭を怪我した際の  
恐怖を見た  
イラク



写真  
元山 医師  
子供が頭を怪我した際の  
恐怖を見た  
イラク

私たち医師、歯科医師、医学者は、今回のアメリカの国連決議なしのイラク攻撃を、どうぞ止めることはできません。

国連が早急に機能を回復し、世界の平和を願うすべての國々の結束で、日本も正しい戦争の中止と話し合いによる平和的解決の道を開けることを望みます。また唯一の被爆国であるわが国こそ、その先頭に立つことが求められています。

かつて湾岸戦争で米軍が使った劣化ウラン弾による放射線汚染は、今なおイラクの子どもたちの体を蝕み、尊い命を奪っているのです。私たちは、今こそ医師としての使命を果すべきから、いかなる兵器の使用も許すことはできません。

私たちはアメリカの一方向的な戦争に反対します。

核兵器廃絶をめざす富山医師医学者の会  
元山 医師  
片山 喬

**STOP!WAR**

核兵器廃絶をめざす富山医師医学者の会

〒930-0004 富山市桜橋通り6-13 フコクリル11F 保険医協会会館 076-442-8000 FAX 442-3033

私もイラクへの一方的な攻撃に反対です 院長

県内の医師、歯科医師、医学者に約1500枚届けたポスター

# アメリカが「使える」核兵器開発に着手

## 1年半後に実戦配備、核先制攻撃はアジアを想定

5月20日、アメリカ上院本会議は小型核の研究開発禁止規定の維持を求める民主党提出の修正案を否決し、ブッシュ政権は「使える」核兵器開発に本格的に着手しました。これを受け、ラムズフェルド国防長官は会見で、地中貫通型ミサイルへの搭載を示唆しています。

アメリカが冷戦時代の戦略を根本的に見直したのは9・11事件でした。一つは、アメリカにとって現在は脅威でなくとも、将来その可能性があると判断した相手には、「先制攻撃」を加えることを基本としたことです。

もう一つは、使わないことを前提としている大型の戦略核兵器の抑止効果は、テロリストや「ならず者国家」に対する圧力とはならない、必要なら核兵器を使うという姿勢に変わったことです。

そして昨年3月、国防総省の機密文書によれば、ブッシュ政権がイラクと北朝鮮での核兵器使用計画の策定を命じた、と報道されました。イラク戦争が終結した今、アメリカによる新型核の最初の先制使用はアジア、というシナリオが非常に現実味を帯びてきています。



このように、ブッシュ大統領は先制攻撃と核兵器使用宣言で、「ならず者国家」のどの指導者よりも危険な人物となつたという意見もあります。

ここ最近、アメリカは臨界前核実験を繰り返していますが、新型核兵器開発は爆発を伴う核実験が必要と見られています。これは包括的核実験禁止条約（CTBT）に違反します。アメリカはクリントン前大統領が調印したものの、議会が批准を拒否しました。ブッシュ大統領は、昨年「CTBTには拘束されない」という声明を出し、世界から批判を浴びています。

### アメリカの「使える」小型核兵器開発に反対する

イラク戦争の行方が混沌としているなか、ブッシュ米大統領は今後使用可能な小型核兵器の研究・開発の解禁と予算計上を議会に要請しました。イラク戦争で使用した特殊貫通弾への搭載を視野に入れ、「フセインを殺せなかつたのは爆弾に威力がなかつたからだ」と言わんばかりのやり方に私たちは戦慄を覚えます。

アメリカでは国防権限法にある「ファース・スプラット条項」により、広島型の三分の一以下の威力の核兵器の研究・開発・製造は一切禁止されています。これは、核兵器が容易に使用されることを防ぐために、クリントン政権発足直後の1993年に民主党のスプラット下院議員が提案し、現在まで共和党的批評を受けながらも、使える核兵器開発を抑制してきた、アメリカの良心とも言うべきものです。

しかし二〇〇二年初頭に出されたブッシュ政権の「核戦略見直し」では、イラク、北朝鮮、中国、ロシア、イラン、リビア、シリアの七カ国を名指しで核攻撃の対象としていることと、ピンポイント攻撃可能な核兵器開発が盛り込まれました。国連憲章を無視して先制攻撃を行ない、罪もないイラク市民の犠牲を「誤爆」で済ませ、アメリカに批判的なメディアも標的にしたブッシュ大統領は、今や世界共通の脅威となりつあります。熱病に憑かれた指導者は、このままでは核兵器を使用することに何のためらいもないでしょう。

私たちは、世界の平和を願う世論によつて米国議会が小型核禁止条項を守り、ブッシュ政権の暴走にブレーキをかけることをから願わずにはいられません。

二〇〇三年四月二十二日

核兵器廃絶をめざす富山医師医学者の会

世話人代表

片山 喬

# イラク戦争 暗黙はアメリカの扇動

## 5/5 森住卓写真展と講演会

5月5日に富山市民プラザで写真家森住卓氏の写真展及び講演会が行なわれました。森住氏は今までにイラクを幾度も訪れ、劣化ウラン弾の被害を取り材し、写真と講演を通じて世界に訴えてきました。今年は戦火の中を二度訪れ、バグダッドの惨状を写真に収めてこられました。フリージャーナリストからみたイラクの実情をお伝えします。

私が今回イラクに入国したのは開戦後の3月21日でした。最初の夜は疲労で熟睡していましたが、爆撃でホテルの部屋が何度も揺れたのがわかりました。普通、外国人は市内を勝手に出歩くことはできず、情報省のバスに乗せられ見学するのですが、私はイラク攻撃を糾弾するアメリカのNGOとともに行動していましたために自由に見て回ることができました。

### 略奪は米軍が扇動したもの

4月になり、バグダッドが陥落した後に再度入国しました。そのころは町の至る所で略奪が行なわれていました。私には理性的で思慮深いイラク人が略奪を働くことが信じられなかつたのです。

しかし後に「人間の盾」としてバグダッドに留まっていたスウェーデン人が明らかにしたのですが、破壊されたイラク行政政府ビルの前で、米兵が集まってきた住民にアラビア語で「ビルの中のものを持ち出してよい」と、略奪を呼び掛けていたというのです。その直後から激しい略奪が全市に波及していきました。さらに米軍は刑務所に囚われていた犯罪者を釈放し、略奪をけしかけたといわれています。

米軍は市民の略奪行為を演出して、イラク人が統治能力を持たないことを世界にアピールし、アメリカがイラクに居座ることを正当化しようとしたしました。戦闘



は終わっても、戦後処理をめぐる情報戦は依然続いていたのです。

### 病院さえも略奪の対象に

イラクの病院は湾岸戦争後の経済制裁によって、薬も医療機器も不足し新しい医学技術も導入されず、治療もままならない状態となっていました。多くの子供たちは劣化ウラン弾の放射線障害による病気が治ったためではなく、薬がもらえないために退院せざるを得ませんでした。

さらに4月のバグダッド占領後は病院も略奪の対象となってしまい、今でも機能は回復していません。米軍はクリスチヤン系の病院は警備しますが、赤新月社

(赤十字社)系の病院は放置し、荒らされるがままになっています。戦争が一段落し、世界中から医薬品が届けられるようになりましたが、市内の治安が悪いために病人を移送することすらままなりません。占領後は停電が続いており、靈安室の冷凍庫が使えないために、病院の裏庭は即席の墓地となってしまっています。

### イラクのことはイラクが決める

私はアメリカ人にこそイラクの実情を知りたい、この思いから全米で写真展を開いてきました。

アメリカは中東の霸権を握るため、時には武器を与えるなど、その時々の必要

に応じてイラクを思うがままに扱ってきました。そして今回の戦争です。これはアメリカの非道ぶり、無法ぶりの総まとめといえるでしょう。

どのような政府であれ、イラクのことにはイラクが決める。この当然の権利を踏

みにじったアメリカが国際的に認められるはずがないと、僕は思っています。

(講演前半で語られた劣化ウラン弾の影響については割愛させていただきます。  
ご了承下さい—編集担当)

# 劣化ウラン弾の脅威

反核京都医師の会世話人 足立 明

\*本稿は著者の了解を得て、京都保険医新聞より転載させていただきました。

足立 明（あだち あきら）  
京都市南区、内科開業医。1971年京都府保険医協会公害委員会発足以來、主に大気汚染担当。1973年京都府医師会公害対策委員会では13年間、京都市の自動車排ガスの環境影響調査に従事。

1982年核戦争防止・核兵器廃絶を訴える京都医師の会世話人。1991年京都道路問題連絡協議会代表、現在、京の道と交通を考えるネットワーク代表。共著『原子力と共存できるか』。

## ① 原爆同様の被害をもたらす危険な兵器

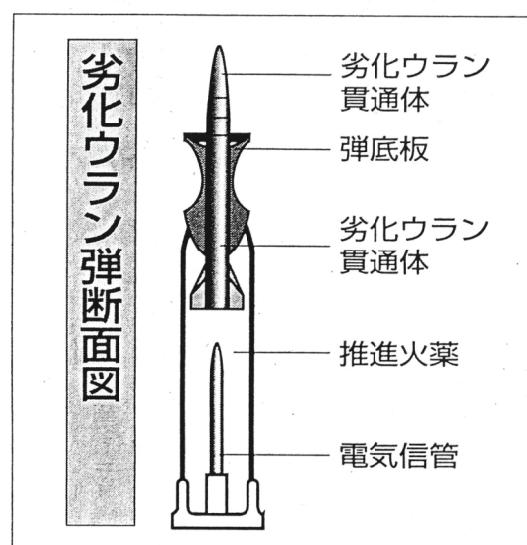
「イラクに劣化ウラン弾が使われていた」とニュース報道しているが、米軍当局は開戦前から「使用する」と言明している。

劣化ウランDU(depleted uranium)というと、いかにも害がないように聞こえて、劣化という表現はその危険性を隠す恐れがある。劣化ウランには0・2～0・3%のウラン235が含まれる。残り99・7%のウラン238も質量当たりウラン235の17%の放射能を持つ核物質なのである。

なぜ使われるのか。それは原子力産業がもてあましている放射性廃棄物だし、原材料はもちろんタダ。軍事的効果が抜群で、安く容易に人を殺すことができるからである。その徹甲弾は敵戦車をマッチ箱のように撃破し、火災を起こす。

一番困るのはDUの火災効果で、敵を殺傷と同時に放射性エアロゾルとなって飛散すること。特にその体内被曝によって広島原爆と同じ深刻な被害が起こっている。IPPNW(核戦争防止国際医師

会議)は「劣化ウラン弾は原爆と同じ。もう一つの広島」と言っているのだが、米国は通常兵器と看做して使用している。さらにEUを始め多くの国へ輸出しているため、世界中に放射能汚染の危険性がある。(京都保険医新聞No.2372)



## ② 化学・放射能毒性で先天的異常も

劣化ウラン弾は、湾岸戦争でイラクに320～750t、バルカンに6t使用された。70%は衝撃による自然発火によって、酸化ウランのエアロゾルになる。大気汚染の浮遊粒子状物質SPMと同じように、5マイクロメーター以下で容易に肺胞から血流に入って、全身殊に腎・肝・生殖器を障害し、さらに脳神経系、免疫系等もやられる。重金属化学毒性と放射能毒性の複合被害である。

米軍戦死者数より一桁上の復員後病死者を出しているのは、この湾岸戦争症候群、バルカン症候群と呼ばれるものである。復員軍人の尿中に、9年後にもウランが検出され、陰毛、精液にも見られることは、生殖器障害があるわけで、胎盤を通過して種々の先天的異常を多発させている。帰還兵のグループで67%に先天的奇形児、イラクの5歳未満の死亡が、湾岸戦争後急に2倍以上に増えた等、多数のレポートがある。

ウラン238は、発火し崩壊して核種を多く生成するが、その核種も放射性であり、崩壊前のウランの放射能の強さと同じである（放射平衡）。つまり、放射能は形を変えただけで無くならない。放

### ウランの放射能毒性

▲職業人 年摂取限度 0.2 g
一般人 0.01 g (10mg、職業人の1/20)
▲別に化学毒性あり
▲25mm弾1発は15,000人の一般人許容量
▲コソボ紛争 31,000発、総量約6t 湾岸戦争 約100万発、総量約320～750t
註：米国の原子力発電所だけで毎年1万6,000tの劣化ウラン生成

射能は細胞を障害し、遺伝子の突然変異を起こしていく。広島で証明されているように、白血病はすぐだが、発ガンには5年から60年かかるため、発症の予測が難しい。低レベルの放射能でも閾値（ルビ=いきち）なしに遺伝子異常を起こして、その突然変異で発ガンするという学説が有力になってきている。

（京都保険医新聞No.2373）

## ③ ウラン汚染で慢性的放射能障害に

劣化ウランが原爆と違う点は、核分裂連鎖反応（核爆発）がないだけで、原爆ウランの17%の放射能は持っている。100万発も使えばその放射能は膨大となり、被害も比例することになる。

4月10日の新聞は「バグダッド陥落」と躍る。ハイテク機器を組み込んだ劣化ウラン弾の威力に、イラク側は戦略を変えたようである。テレビの実況でウラン弾が命中した戦車は、一瞬にして破壊と同時に発火している。発生した酸化ウランエアロゾルは飛散して、人体の外部、内部被曝を来し、さらに風、砂、人体、車輌等で100kmでも移動する。土壤中に入り飲料水を汚染し、生物濃縮を繰り返し、人間は濃厚なウラン放射能に曝することになる。イラクの土壤中には、

劣化ウランが数トン以上あると言われ、これは慢性的放射能障害の唯一の原因となっている。今回のイラク戦でさらに量的に上積みされて、人々は広島と同じ、長い放射能毒性に苦しむことになる。

米英軍は、湾岸戦争での劣化ウラン弾の戦果に満足していたが、研究調査の予想通り、自軍の将兵にも被害が出て判つたことで、今回は戦車乗員を守る装甲には使っておらず、生化学兵器予防具を全て装着するなどの工夫をしている。

「早く戦争を終わらせる」と言っているのは、劣化ウランの自軍被害予防のためもあると考えられる。

（京都保険医新聞No.2374）

## ④ 広島原爆病と水俣病の合併

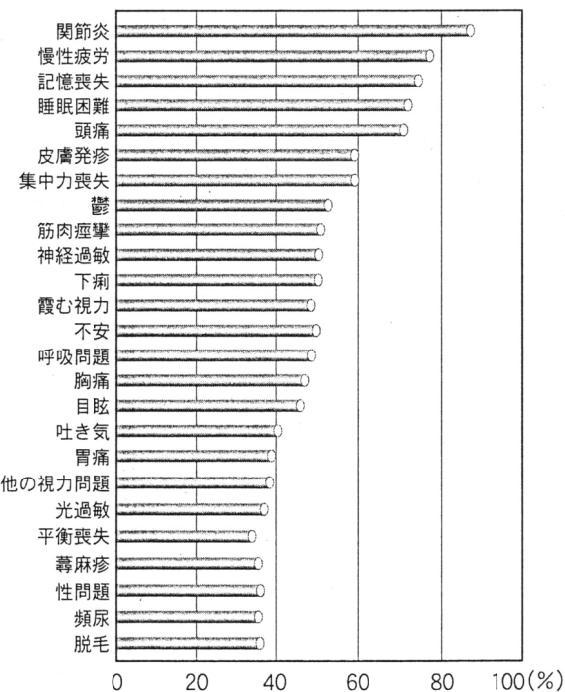
劣化ウラン弾は発火とともにウラン放射性微粒子となり、高熱でセラミック状になると体外排出は半減期10～20年で、5マイクロメーター以下になると半永久的に出ない。健康被害は湾岸戦争で証明済みなのだが、疫学的調査がされていないので、使用者側は頑として否認している。数年前までの我が国の大気環境汚染裁判のように、被害者個人と汚染原因を特定するのは不可能に近い。部分的に学者が特定器官と結びつけても、使用者側は何とでも否定できる。

放射能と同時に重金属としての化学反応は、その表面積に比例するので、超微粒子になった場合、その危険性は桁違いに大きく、数千万倍にもなると言う。肺を通って血中に入った劣化ウラン粒子は骨、リンパ節、肝、骨に留まり、免疫システムや骨髄を破壊する。白血病、ガンの他、骨、呼吸器、消化器疾患、関節炎、先天性異常等多彩である。

バルカンのコソボでは、劣化ウランではなく、使用済み核燃料からの減損ウランがあった。これはウランとプルトニウムと核分裂生成物質（死の灰）が混入し、さらに悪質である。当然その放射能毒性も強く、人間の寿命感覚では永久に障害が続く。

この放射能と重金属毒性の複合症状は、

表 湾岸戦争症候群の米軍帰還兵650人の症状の割合



出典：京都大学原子炉実験所・小出裕章氏講演より

イラクの小児白血病が末梢神経麻痺や腎臓障害を併発していて特徴的である。日本で言えば、広島原爆病と水俣病に環境ホルモン作用を併発したものと考えて良いだろう。

（京都保険医新聞No.2376, 2377）

## ⑤ 彼らは荒廃を作り出し、それを平和と呼んだ

軍事活動はそもそも秘密、何でもあり。「勝てば官軍」それは人間の本質が暴力であるから。ベトナムの枯れ葉作戦に始まる米国の非人道的、非論理的な数多い行動は、ローマ帝国の衰亡期によく似ている。米国民の多くは真実の情報を知られていっていないだけで、社会正義に反する戦争の事実を知れば、民衆の支持は失われていくだろう。兵士は消耗品と見なされ、当然のコストであり、自軍兵士の損害が確率的に少なければ良い。米経済の特長は、軍産複合体の収益性の高いペンタゴンとの契約企業に依存している。劣化ウラン弾も親米の諸国10カ国以上に輸出されているし、米国は世界の全兵器

の75%を供給している。

欧米の識者、新聞人の中には、劣化ウラン弾の使用は道義の問題であり、国際法違反、人道犯罪、戦争犯罪であり、自分たち自身が大量破壊兵器を使用している、と言っている。ジュネーブ条約、ハーグ条約は、毒性や不必要な苦しみを与える兵器を明確に禁止している。

45億年かけて放射性物質をなじませてきた物を原子爆弾や劣化ウラン弾等のダーティボムに使用して、最大の環境破壊を起こした。いずれ低レベル被曝は世界に拡散する。天に唾する行為である。現実に核実験場、軍事基地、及びその周辺地区の被曝者が声を挙げても、被害弁

償は非常に部分的に抑えられている。

イラク問題でも全てに言えることは、マスコミに出していないところに決定的な真実が存在するということである。

「対照地区と被害地区とを厳密に疫学的に比較する」調査は、複雑な交絡因子があり、イラクでは特に大変である。しかし、欧米専門家有志が声を挙げ、核心をついた議論が出来ているので、資料としてまとめること、さらにUNEP（国連環境計画）調査などをバックアップするこ

とが必要である。今の時点で追及しなければ、ウラン被害は検証できなくなる。多くの人がこの問題に関心を持って行動することしか、解決への道はないだろう。

暴力と詭弁がまかり通り、人間の倫理と理念がなくなっている現在、根源の問題を論ずる思想家の毅然たる喝破が今、切望される。

(京都保険医新聞No.2378)

## 原爆症「認定」求めて集団訴訟

広島、長崎の被爆者が原爆症認定を求めて全国各地で集団提訴が行なわれています。この裁判は、厳しい認定基準の是非と国の姿勢が問われる裁判になるものといわれています。

被爆者はがんや機能障害などの病気に苦しんできましたが、その病気の起因性（原爆放射線の影響による）と要医療性（治療を必要としている）の二つの条件を満たせば「原爆症」と認定され、医療費負担の免除に加えて、医療特別手当（月額14万9600円）が支給されることになっています。

### 放射線被害を過小評価する 日米政府の姿勢

起因性について、松谷訴訟の最高裁で国は敗訴したにもかかわらず、それまで使用していた被曝線量推定方式よりハードルの高い「原因確率」という基準で審査しています。その結果、被爆者手帳取得者28万5620人にたいし、認定者はわずかその0.7%である2169人にすぎないという状況です。「認定は国の予算の範囲内で限られている」と、裁判で国側証人が本音を漏らしたこともあるといいます。

日本政府が、これほどまでに原爆症認定にこだわる背景として、アメリカの圧力があることは公然の秘密となっています。アメリカは国内に、核実験に伴う多くの被爆者（いわゆる風下の人々）の健康被害や、劣化ウラン弾のエアロゾルを浴びたと思われる湾岸戦争症候群の兵士

たちの問題を抱えていますが、放射線との関連性を認めていません。

この裁判で放射線被害の残忍さを科学的に証明していくことは、アメリカに劣化ウラン弾や小規模核兵器の使用をやめさせる世論形成の大きな力となることでしょう。



自分の被爆体験を描いた絵を示す原告団

### 原因確率（寄与リスク）

アメリカがネバダ核実験場のデータに、日本家屋などの遮蔽物情報と広島・長崎の被爆者や放射線量の痕跡をコンピューターで計算したもの。

しかし、①爆心地から2キロ以遠の被曝線量を過小評価している、②72時間後の爆心地に入った人への影響はないとしている、③放射能汚染物質の摂取による体内被曝を考慮していないなど、④人体への影響がガンマ線より5～20倍の中性子線の被曝推定量を単純に合計しています。

## 氷見市出身監督のドキュメンタリ映画の上映会

# 「ヒバクシャ」～世界の終わりに～

日時 6月15日(日)

第1回上映 13:00  
第2回 15:00

会場 サンシップ富山 1Fホール

入場料 当日千円（前売800円）

主催 (財) 富山YMCA



## 監督【鎌仲ひとみプロフィール】

1958年生まれ、氷見市出身。  
91年10月、文化庁芸術家海外派遣助成金を受けて、カナダ国立映画制作所へ渡る。その後ニューヨークなどで活動。95年帰国。以来、フリーの映像作家として活躍。

世界で初めて原爆が投下されてからすでに57年、経った。ヒバクシャはこの57年をどう生きてきたのだろうか。原爆の体験はこの間、日本や世界の人々と共に共有されてきただろうか？ヒバクシャとはどのような存在なのだろうか？

この疑問は98年、イラクを訪れ、湾岸戦争で使われた劣化ウラン弾により白血病を病んだ多くの子供達に出会ったことから始まった。彼等は世界から隔絶し、自分に何が起きたのか語る言葉を持たず、十分な医療もなく、そして私の目の前で亡くなつて行った。その中の一人、14才の少女、ラシャは「私を忘れないで」とメモを手渡した。ここから私のヒバクシャの声を聞く旅が始まった。

広島で被爆した医師、肥田舜太郎は85才の今もヒバクシャの医療と人権の回復に情熱を傾けている。被曝体験から肥田医師は微量の放射能がもたらす危険を訴えてきた。肥田医師の活動を通して、人類史上稀に見る悲惨な体験から日本のヒバクシャが獲得した、アイデンティティ、そしてその魂のメッセージを探る。（中略）

この映画では核の被害者を等しくヒバクシャと呼びたい。放射能は目に見えないが確実にこの世界を汚染し続けている。だからこそ、今、ヒバクシャの声に未来へのメッセージに耳を傾ける。

（公式HP「コンセプト」より抜粋）

## 会費納入のお願い

私たち医師・医学者の会の活動は、会費中心に運営しています。活動の基盤となる財政を確保するため、先生の入会ならびに2003年会費の納入をお願いします。

会の趣旨に賛同し、入会を了承される先生は、FAXまたは電話でその旨ご連絡ください。会費納入用郵便振替票をお送りします。

◆年会費 5,000円（毎年7月が期首）  
◆振込方法

「郵便振替票」をご利用下さい。

◆連絡先

核兵器廃絶をめざす

富山医師・医学者の会

富山市桜橋通り6-13

フコクビル11階 076(442)8000

## 編集後記

- 世論調査での有事法制の賛成理由は「攻められたら何らかの対応が必要」「万が一のときに備えは必要」というもの。当たり前の標語みたいなものです。
- 北朝鮮が金正日体制存立をかけて瀬戸際外交を展開していることに乘じて、素朴な日本人の感情につけ入るAll or Nothingの議論は小泉内閣の最も得意とするところ。
- 「自衛隊は軍隊である」こんなことを平気で言った総理大臣は今までいません。きっと有事法に自信を深めたのでしょう。
- しかし、素朴な日本国民は「軍隊」には強いアレルギーをもっています。自衛隊だから憲法第九条と折り合いがつくんだ、災害時にも国民を救援すると。国民にも気がついて欲しい、自衛隊を軍隊にする法律が有事法制だということに。（S・M）